

## 小規模幼稚園の閉園協議について

幼児教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っており、その教育効果を担保するには、一定規模以上の集団で行う教育活動が欠かせません。しかしながら、そうした教育環境を確保し、維持することは、全国的に少子化の進行や保育所へのニーズが高まる中で、年々厳しさを増しています。

本市においては、「学級数1以下(園児数が10人未満)の状態が2年続く」場合には、近隣の幼稚園において集団教育の環境を提供することを前提に、地元の了解を得ながら幼稚園の閉園を検討することとしています。(平成24年策定「出雲市立幼稚園の閉園に関する方針」)

このたび、閉園協議を行った乙立幼稚園、上津幼稚園の今後のあり方について、地元との協議が整いましたので、これまでの経過と今後についてご報告します。

### 1. 乙立幼稚園について

#### (1)閉園協議に至る経過

- ①平成28、29年度の2年連続して園児数が10人未満であり、平成29年9月、乙立自治協会に対し現状及び今後の見込について説明し、閉園協議を開始。
- ②平成31年度は在園児が0人となる見込みであり、平成30年5月、乙立自治協会に対し、「(乙立小学校と朝山小学校が統合する)平成31年3月31日をもって乙立幼稚園を閉園すること」について、文書での回答を依頼。

#### ○出生数、園児数(5/1時点)の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30
地区内出生数	4	3	4	3	—
園児数計	2	休園	2	2	1
(3歳児)	0	0	1	0	0
(4歳児)	0	0	1	1	0
(5歳児)	2	0	0	1	1

#### (2)地元からの回答

平成30年7月に、乙立自治協会から次のとおり回答があった。  
「当分の間(2～3年間)休園を希望します」

#### (3)今後について(地元との覚書締結内容)

- ①平成31、32年度の2年間休園とする。
- ②今後のあり方については、平成31年度及び平成32年度の各年度において継続して協議を行い、その時点の状況を見極めながら、閉園の取扱いについて検討していくこととする。
- ③再開条件は、「10名以上の園児が継続して見込めること」とし、見込めない状況であれば、平成32年度末をもって閉園とする。

## 2. 上津幼稚園について

### (1)閉園協議に至る経過

- ①平成 29、30 年度の 2 年連続して園児数が 10 人未満であり、平成 30 年 5 月、上津幼稚園運営協議会（上津地区自治協会長を構成員に含む）に対して現状と閉園協議が必要となることを説明。
- ②平成 30 年 6 月、上津幼稚園運営協議会に対し、「上津幼稚園の今後のあり方」について、文書での回答を依頼。

### ○出生数、園児数（5/1 時点）の推移

年度	H26	H27	H28	H29	H30
地区内出生数	3	4	11	4	—
園児数計	12	7	10	9	9
（3 歳児）	3	0	5	2	2
（4 歳児）	2	3	2	5	2
（5 歳児）	7	4	3	2	5

### (2)地元からの回答（要旨）

平成 30 年 7 月に、上津幼稚園運営協議会から次のとおり回答があった。

「閉園について地元は同意しない。」

「幼稚園については様々な体制作りを実践中であるので今後 4、5 年間はその成果について経過を見る必要があると考えている。」

### (3)今後について（地元との覚書締結内容）

- ①平成 31 年度以降も園児募集を行い、平成 31・32 年度の 2 年間は経過を見る。
- ②平成 33 年度以降に閉園協議に該当する場合は再協議を行い、その時点の状況を見極めながら、地元の意見を尊重し、閉園の取扱いについて検討していくこととする。

### 【参考】

#### 出雲市立幼稚園（27 園）の園児数（5/1 時点）の推移

年度	H27	H28	H29	H30
園児数計	1,369	1,365	1,280	1,252
（3 歳児）	370	389	380	355
（4 歳児）	509	438	438	432
（5 歳児）	490	538	462	465